三日坊主は悪いこと！？

三日坊主と聞くと、あまりよいイメージがありません。辞書で調べてみると「あきっぽくて、長続きがしないこと。そういう人」と書いてあります。例えば、習い事をしても、すぐにあきてしまって、やめてしまうことを繰り返している子に、「あなたって、いつも三日坊主だね。本当、あきれた子ね。」と言うようなことがあります。

ある時、親に「あなたって、いつも三日坊主だね。本当、あきれた子ね。」と言われた子が、「三日坊主って言われたけど、どんな意味なの。」と聞いてきました。「三日坊主は、あきっぽくて、長続きがしないことを言うんだよ。」と教えると、その子は「その通りだ。長続きしないからな。」と納得しているようでした。ただ、「あきっぽくてやめるのとは違う。」と言うので、なぜか聞いてみました。「あきっぽいのではなくて、自分に合わないからやめたんだ。」と答えが返ってきました。その子は、いろいろなことに挑戦し、自分に合うものを探していたのです。

一つのことを極めることもとても価値のあることです。でも、違った見方をすれば、一つの経験しかできていないと見ることもできます。子どもはまだ何が向いているのか分からないものです。自己を発見するためにも、様々な経験をさせておくことも、これからの人生に役に立つかもしれません。

大切なのは、三日坊主を悪いと決めつけるのではなく、見方によってはよいことになるということ、子どもからどんな考えがあったのかとじっくりと話を聞いてあげるということです。

子ども一人一人の「ありのまま」を受け止めて、その子に合った寄り添い方をしていくこと。どの子も「いいものを持っている」と信じて向き合えば、子どもの心も豊かになっていくこと。そんなことを教えてもらった気がします。

参考：テレビ寺子屋　吉岡たすく